

<p>現状</p> <p>・平成29年度区学カテストより 第3学年は数学・社会において、ほとんどの観点において目標値以上の数値である。また、英語は「表現の能力」に課題が残るものの、その他の観点は、1.7～8.7ポイント目標値を上回っており、昨年度よりも向上している。 第2学年の国語は、4つの観点において目標値を上回る結果となった。 第1学年の国語・数学において、すべての観点で目標値を超えている。</p>	<p>課題</p> <p>・小学校までに獲得しなければならない学力が身に付いていないために、中学校の学習ができない生徒がいる。 ・学ぶ意欲や基礎学力が十分でない生徒、個別支援が必要な生徒がいる。 ・指導には素直に従うが、知識欲や好奇心に欠け、学習意欲に欠ける生徒がいる。 ・授業で理解した内容を確実なものにするため、家庭学習による学力の定着に課題があると感じている。</p>	<p>学力向上にむけた改善策</p> <p>家庭学習ノートを毎日提出させ学年の教員で点検し、提出状況が年間を通じてパーフェクトだった生徒を表彰する。理科においては、科学における最新のニュースや身近な情報を紹介し、ICTを活用した視覚に訴える授業や実験の学習を増やす。また、小テストを定期的実施して、学習内容を確認させる。英語においては、言語活動の場面を多く設定し、コミュニケーション能力の向上に努める。特に単語や文を正しく書くことの能力を向上させるために、表現(書くこと)を意識した授業の工夫が必要である。単語や文法を定着させるため小テストを実施する。</p>
--	--	---

<p>生活指導の指導の重点</p> <p>①生徒の自己実現と望ましい学級集団作り ②授業規律の確立した愛情ある厳しさ ③家庭・地域と連携した基本的生活習慣の向上 ④不登校解消を目指す教育相談活動及び外部機関との連携 ⑤「いじめ」及び非行を未然に防ぎゼロトレランス ⑥問題行動の発生時には即時のチーム対応 ⑦教科指導と連携した非行防止学習 ⑧保護者と連携したSNS等への情報モラル指導 ⑨「安全教育プログラム」を活用した危険予知・回避指導 ⑩生徒自らが正しく考え行動できる判断力の育成</p>	<p>学力向上にかかわる学校経営方針</p> <p>チーム堅中の創生 学校、生徒・保護者、地域をひとつのチームとして組織し、目標達成に向けてともに努力するチームを土台とする。 1 「学校は、夢をかなえるための道場」とし、夢の実現に向けて師弟同行をモットーとする。 2 個々の生徒・保護者への対応を、教師集団が一丸となって行う。 3 漢字・計算・スペリング・地理コンテストを実施し、基礎学力の定着を図る。 4 成績上位者と各種検定の成績優秀者を表彰し、切磋琢磨する雰囲気を作る。 5 キャリア教育を充実させ、自己の夢に向かい努力し、目標達成に向け取り組むチームを構成する。</p>	<p>道徳教育の指導の重点</p> <p>①全教員協力による道徳教育の推進 ②教師と生徒がともに考え、共感できる指導の実践 ③命に関わる学習の積極的な推進 ④他者へのいたわりの心の育成 ⑤保護者や地域への啓発及び小学校との連続性の重視 ⑥学校生活全体の中から、心に響く教材開発の推進 ⑦あらゆる機会を通じた、道徳的な心情の育成</p>
<p>進路指導の指導の重点</p> <p>①自己理解を深め、自らの長所を生かす態度の育成 ②キャリア教育を充実させ、自ら主体的に進路を選択できる能力の育成 ③生き方学習を充実させ、望ましい勤労観・職業観の育成 ④企業や上級学校と連携した啓発的な学習体験の実施 ⑤職業体験の効果的な実施 ⑥発達段階に応じたキャリア指導の実践 ⑦個に応じた資料・情報の収集及び提供・活用の促進 ⑧地域人材を活用した、パワーアップ面接練習会の実施</p>	<p>機能する PDCA cycle</p>  <p>PLAN DO CHECK ACTION CONFIRM</p>	<p>特別活動の指導の重点</p> <p>①自主的で望ましい集団活動の実現 ②生徒が主体的・意欲的に活動する学校行事 ③生徒自身の手で『いじめ』のない学校づくりの推進 ④情報モラル教育の徹底 ⑤保護者や地域と連携した「ボランティア活動」の実施 ⑥外部講師による学習や体験的な学習の推進 ⑦生徒一人一人の個性が集団の中で生かせる取組の工夫 ⑧食に関する指導の目標、及び食物アレルギー対応を含めた全体計画等に基づき、食育の実践</p>
<p>知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス</p>	<p>目指す生徒像</p>	<p>総合的な学習の時間の指導の重点</p> <p>①真に生きてはたらく力の育成 ②課題解決、問題解決能力の育成 ③平和教育を基盤に人間力の育成推進 ④評価の観点を主体的に学ぶ力の定着の度合いで評価 ⑤学年進行に合わせ個人テーマのレベルの向上支援 ⑥思考力・判断力を高める表現活動の重視</p>
<p>【国語】小学校で学習した漢字を書くことや読むことができる。また、故事成語について理解している。また、自分の意見を発言することはできる。しかし、相手の意見に対しての自分の考えをもち、質問することは苦手である。2学年は書くことについては非常に積極的に書くことができる。3学年は、学習状況調査において、どの領域も全国平均正答率を上回っている。</p>	<p>【国語】・全員がよく話を聞いている。・指示された作業も全員が行っている。・定着が課題となっている。 ・問題に向き合い、最後まであきらめずに考える姿勢を身につけている。・どうしてそう考えるのかの根拠を示すことができる。・自分の考えと周囲の考えを比較することに興味・意欲をもつことができる。</p>	<p>【国語】漢字50問テストで、各自正答率が8割を超えるまで再テストを行う。毎月行っている新出漢字の漢字テストの中に、都立入試向けの小学校の復習漢字を入れる。また、慣用句・ことわざ・故事成語などの問題も、漢字テストの付録として出題する。聞くテストは年度末までにあと5回行う。(年10回)授業のなかで、自分の考えを深めるような質問をするよう指導する。</p>
<p>【社会】社会科に関する既存の知識が非常に少ない。静かに授業を受けているが、思考している時間が少ないように感じる。要個別支援が必要な生徒が複数在籍している。</p>	<p>【社会】・現在の授業規律を維持し、安心した学習の空間を作る。 ・社会的事象に興味・関心をもち、質の高い教師との対話を実現する。・苦手な生徒も、前向きに取り組む姿勢をもっている。</p>	<p>【社会】毎時、身近な社会的事象を取り上げ、興味・関心を高めるところから始める。歴史分野にも話し合い活動の手法や題材を考え、実施する。単元ごとに小テストを行い、習熟度の低い生徒に関しては再テストなどを実施し、知識の定着を図るようにする。</p>
<p>【数学】発言が多く、活発な雰囲気である。発言の少ない生徒もいるが、しっかり取り組んでいる。助け合い学習を取り入れ、学び合いの時間を確保している。1学年は量と測定領域の面積問題に課題あり。2学年は、図形と資料の活用の領域が全国平均との差が大きい。3学年は連立方程式の問題を教科する。</p>	<p>【数学】・復習を行い、基礎・基本の内容をしっかりと定着しようとしている。・常に活動して楽しいと感じる学びあう活動を行い、積極的に授業に取り組もうとしている。・知っている知識を活用し、課題を解決しようとする前向きな姿勢をもっている。</p>	<p>【数学】復習プリントを宿題に課し、家庭学習を定着させる。習熟度別少人数教室を行い、基礎学力の底上げを図り応用問題にも対応していきたい。ICT機器を活用する。図形の領域は特に視覚的理解が必要なため、視覚的教材を活用し、基礎学力の向上を図る。</p>
<p>【理科】授業にはどの生徒も落ち着いて参加し、真面目である。3学年は昨年から比べると、ノートや実験の考察にしっかり取り組む生徒が増えた。化学変化の質量比やグラフの活用など、また割合の計算等があると苦手意識がある。家庭学習やノートやプリント等の提出は大変良い。しかし、学力的にひとりで学習することが難しい生徒もいる。</p>	<p>【理科】・実験観察に対する目当てを明確にして、取り組もうとする。 ・わかったことを自分の言葉でまとめようと試みる。 ・話し合いで自分の意見を言い合える。</p>	<p>【理科】1学年は小学校の既習事項や復習問題の小テストを、授業開始時に5分程度で行い、放課後追試も行う。実験や観察は目当てを明確にしながらい、わかったことを班でまとめ発表し合う。ICTを活用し視覚的に印象に残る工夫をする。3学年は復習問題集を宿題とし、1週に1回にペースで小テストを実施し、確認する。年間で17回を予定している。</p>
<p>【英語】活発に発言する生徒が多い。しかし、理解や作業に個人差が大きいので、一斉の中の個別対応に配慮が必要である。プリントやドリルなどに熱心に取り組む。ペアワークなどは意欲的に取り組んでいるが、その場で与えられた課題については遂行できても、内容理解にどこまで繋がっているか不安が残るところがある。</p>	<p>【英語】学んだ文法事項を基に自分が発信したい情報を英語で表現することができる。ペアワークで英会話をすると、相手の応答を受け会話を続けることができる。予習復習を積極的にを行い、授業時は意欲を持って能動的に参加することができる。・広く世界に関心をもち、あらゆる文化を尊重し、世界共通語としての英語の意義を理解し、自らの将来に役立てようと意欲的に学ぶ生徒。・自分自身についてや、自分の意見を英語を用いて表現しようすることができる。・音読や会話練習に積極的に取り組む。</p>	<p>【英語】基礎を何度も繰り返し、文法の定着を図る。スペリングの学習を強化し、進度ごとに単語テストを行う。パフォーマンステストの充実を図る。NTIによるインタビューテスト、学級内でのスピーチを年に3回ずつ行う。夏休み明けに、夏休みの宿題をベースとした文法テスト(並び替え・穴埋め)を実施。単元のテーマないし文法に則した、5文以上の英作文を書かせる。</p>
<p>【音楽】全体的に積極的に授業に取り組んでいる。鑑賞曲の内容に対して、積極的に意見を述べたり、根拠となる音楽の諸要素を用いてまとめたりする生徒が多い。また、表現活動においては、準備段階の柔軟体操や発声練習の大切さを意識して、「伸びやかな声」を作りだそうとしている。</p>	<p>【音楽】 ・どの題材においても、前向きに授業に取り組む生徒 ・自ら音楽的な課題をみつけて、解決に向けて努力する生徒 ・音楽を通じて世界の様々な文化を理解し、豊かな情操を育もうとする生徒</p>	<p>【音楽】毎時間、音楽記号や速度記号の復習を行い、合唱曲の表現に生かせるようにする。毎時間、授業の導入時に発声練習や呼吸法を身に付けさせ、表現の技能を高めさせる。パートリーダーを中心に自主的な活動による音取りができるようにする。</p>
<p>【美術】授業規律を意識し、活動に前向きに取り組むことのできる生徒が多い。技術面と理解力の二極化が見られ、技術面で個別指導を要する生徒や、発想構想の工夫をしたりアイデアを深めたりすることが苦手な生徒がいる。</p>	<p>【美術】 ・主題に対して自らの思いや考えをもち、進んで活動に取り組むことのできる生徒。 ・他の表現のよさや工夫を認め、自らの課題を見つけることのできる生徒。</p>	<p>【美術】進度の遅い生徒への対応として、放課後に適宜補充を行う。ICT機器を活用して、参考作品の掲示や鑑賞活動を行い、生徒の興味関心や全体の完成度を高めていく。</p>
<p>【技術・家庭科】授業を聞く意欲は高く、まじめに参加しようという生徒が多い。ワークの提出率は、授業後に提出する場合は高いが、宿題として持ち帰らせると提出率が悪くなる。家庭での学習習慣を身に付けさせる必要がある。実習には非常に積極的である。一方で外国籍の生徒は板書を写すことに精一杯に成っていることも多い。全体的に、コンピュータを使用した実習においてはほとんどの生徒がおおむね満足できる到達状況であった。</p>	<p>【技術・家庭科】 ・積極的に発言し、知識に基づいて問題解決的な思考ができる生徒 ・失敗を恐れずにトライアンドエラーを繰り返し技能の習得ができる生徒 ・創意工夫ができる生徒</p>	<p>【技術・家庭科】毎回の授業の狙い、要点を明確に授業の最初に示す。低学年は知識が定着できていない部分があるため、既習事項の復習テストを行う。また、製作実習が終わった後も、振り返りを行う機会をつくり、製作工程に必要な知識を問う小テストを行う。また、ICT機器を活用して、その授業ごとの製作工程を明確に生徒に示す。実習では班活動を多く取り入れ、リーダー育成にも取り組む。進度に差が出ないよう補修を行い、評価をフィードバックし、生徒の自信につなげる。</p>
<p>【保健体育】単元のねらいに沿って前向きに取り組む生徒が多い。技術的に解ったこと、自分が工夫したことなどをワークシートに記入し、提出率も高く、知識と技能の向上が結びついてきている。</p>	<p>【保健体育】・学習した知識を自分の健康的な生活に生かそうと工夫する生徒・仲間とアドバイスをしあひ素直に受け入れ互いに上達しようとする生徒・自らの課題を理解し、解決に向けて努力する生徒。 ・得意不得意関係なく、「みんなで楽しむ」ことを考えられる生徒 ・単元の種目に前向きに根気強く取り組む生徒</p>	<p>【保健体育】基礎体力をさらに高めるために毎授業時に補強運動として、体幹系を30回、ランニング或いは跳躍系の運動を単元との繋がりに合わせ5分間を実践する。ワークシートに単元のポイント説明量を増やす。映像機器を活用し、本人が自分の動作を見る機会を多くする。</p>